

次期戦略の考え方及び構成

【戦略の基本的な考え方】 ～「北九州市らしい戦略」とする～

○本市の自然環境の特徴や自然の利活用について具体的な事例を記載

○生物多様性の重要性和市民の暮らしとの関わりをわかりやすく記載

第1部 生物多様性を巡る現状

1 本市の生物多様性

「生態系の多様性」、「種の多様性」「遺伝子の多様性」

2 本市の生物多様性がもたらす様々な恵み

「基盤サービス」、「供給サービス」、「文化的サービス」、「調整サービス」

3 本市の生物多様性の4つの危機

「第1の危機」(開発など人間活動による危機)

「第2の危機」(自然に対する働きかけの縮小による危機)

「第3の危機」(人間により持ち込まれたものによる危機)

「第4の危機」(地球環境の変化による危機)

4 本市の生物多様性に関する取り組み

「国家戦略の変遷」、「本市での特色ある取り組みの事例」

(里地里山の持続的な利用、自然ネットの取り組み、響灘ビオトープの開園と自然環境学習施設としての取り組み)

第2部 本戦略の基本理念と基本目標

【基本目標】

1 自然とのふれあいを通じた生物多様性の重要性の市民への浸透

2 地球規模の視野を持って行動できるような高い市民環境力の醸成

3 自然環境の適切な保全による、森・里・川・海などがもつ多様な機能の発揮

4 人と自然の関係を見直し、自然から多くの恵みを感じることができる状態の維持

5 自然環境調査を通じて情報を収集、整理、蓄積し、保全対策などでの活用

【基本理念】

都市と自然との共生

～豊かな自然の恵みを活用し 自然と共生するまち～

第3部 戦略を推進するための本市の施策

●目標達成に向けた方向性を示し施策を記載(60 施策)

基本目標1に対する方向性

「自然環境にふれあう機会の創出」、「農林水産業の活性化と地産地消を通じたふれあいの推進」、「里地里山の利用と活用」

基本目標2に対する方向性

「環境教育・学習の推進、普及啓発」、「自然環境に精通した人材の育成」

基本目標3に対する方向性

「生態系ネットワークの形成」、「地域固有の生態系の保全と利用」、「希少種の保全及び外来種の対策」

基本目標4に対する方向性

「自然と調和した都市基盤整備の促進」、「事業の実施に伴う環境配慮」

基本目標5に対する方向性

「自然環境調査の実施とデータベースの構築」、「市民参加による自然環境情報の収集」

●自然ネット参加団体の事例紹介(19 団体 22 事例)

第4部 戦略の推進に向けた数値目標

基本目標に対し、代表的な数値目標を設定

第5部 戦略推進のために

「自然ネットによる進行管理」、「主体(市民、NPO等、事業者、行政)ごとの役割」

【資料編】 生物多様性に関する国内外の取り組み